

解説

英語学習者向け WWW サイトのリビュー 1

吉田国子

インターネット上には様々な情報が公開されているが、その中に英語学習者が自習用に無料で利用できる物も数多くある。筆者はある学生の協力を得ていくつかのサイトをリビューした。本稿では彼の感想を交えながら文法とリスニング学習に役立つサイトを紹介します、これからの可能性について考える。

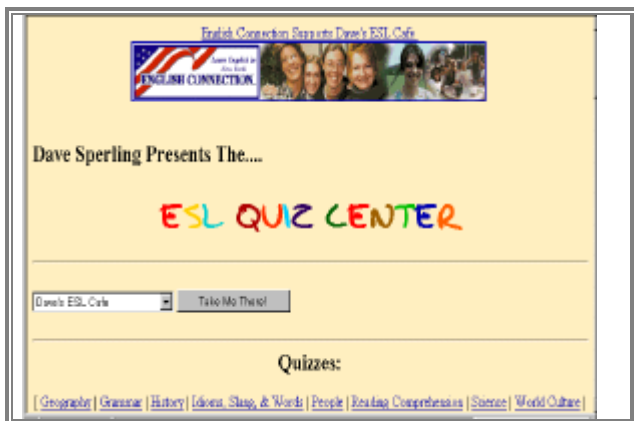
キーワード：WWW サイト、英語学習、自学自習用

1 はじめに

インターネットの普及に伴って、遠隔地教育の機会が広がっている。英語教育の分野に限ってみても、実に様々な組織が様々な目的でインターネット利用した教育を行っており、そのレベルも修士や博士の学位が取れるものから、語学学校が広告を兼ねて運営しているものまで様々である。そうした中でも利用者が最も手軽にアクセスできるものは、英語関連組織や個人が開設している WWW であろう。筆者はここ数年、英語学習者が気軽に使え、なおかつ学習に役立つサイトはないかと注目してきた。ここではそのいくつかを利用者の感想を交えながら紹介する。なおそれぞれのサイトの評価にあたっては、環境情報学部 99 年度の 1 年生、H 君に協力してもらった。ここに謝意を表したい。

2 文法学習に役立つサイト

- (1) The ESL Quiz center
<http://www.pacificnet.net/~sperling/quiz/>



英語教育にかかわる教員や学習者の交流を目的とし、英語学習について広く意見を交換したり、質問を寄せたりできるサイト、DAVE'S ESL CAFÉ の中のクイズのコーナーである。バラエティーに富んだ内容で、取り上げている項目も、Geography, Grammar, History, Idioms, Slang, & Words, People, Reading Comprehension, Science, World Culture, Writing と多岐にわたっている。クイズの採点結果は返送される。文法以外の項目も多くあり、アメリカ文化に関する知識を試すこともできる。

内容が豊富で手軽に利用できるサイトではあるが、頻りに更新されていない様子なので、繰り返し利用するには不向きである。特に文化については幅広い知識を持つことが望ましいので、クイズ問題が適当な期間を置いて更新されると、利用者にとってより使い易くなるであろう。

利用者の感想：質問が適当な長さだったため、興味を持って取り組めた。また地理や歴史、人物と言った項目中には知らなかったことも多く勉強になった。しかし、逆に科学の項目では専門知識が無いと答えられない恐竜の名前や、昆虫の名前を問う問題もあり、解答する際にとまどった。

- (2) Interactive English Language Exercises
<http://www.baysights.com/aardvark/interactive/>

元々は語学学校が提供するサイトであったが、数年前に英語学習者向けのパブリックサイトとして独立した。文法、語彙、熟語の練習問題が 8 編と国旗のクイズがある。練習問題は 6 編まではレベル分けされておらず難しいものから比較的簡単なものまで混在している。残りの 2 編は中級者向きである。国旗クイズは 5 段階のレベルに分かれている。interactive という名前が示すとおり、解答を送ると結果が短いコメント付きで返送される。

文法等の練習問題は、長らく英語から離れている人や、英文法の知識を手軽に試したい人には便利なサイトであろう。しかしレベルや項目別の分類がされていないため、系統だった実力診断には向かない。国旗クイズは、楽し

みながら各国の英語名を確認することができる。特に国名のスペル確認に役立つ。

利用者の感想：選択肢付きの問題ばかりでなく、答えを書きこむ問題もあるので、受験以降忘れる一方の英語の知識を呼び戻すことができた。受験とは違い、楽しめる要素があるのでよい。国名を英語で書くクイズは、思いのほか難しく、返送された結果はひどく悪かった。

(3) Test your English

(<http://www.cesc.co.uk/CESC/frame.cfm?frame=6>)

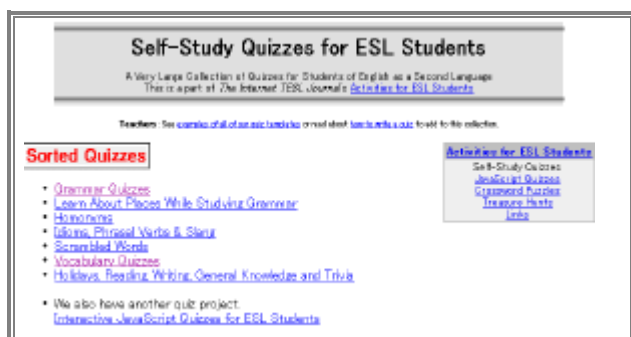
オックスフォード大学出版局が運営する英語教育機関が開設しているWWWのサイトの一部である。文法と語彙、会話表現に関する設問が80問あり、すべて選択肢の中から選んで解答する。80問の中では会話表現に関する問題の方がやや多い。このサイトもテストの結果をメールで送ってくれる。厳密なレベル診断にはならないが、おおまかな目安にはなる。

利用者の感想：80問全問解答するのに多くの時間がかかり大変だったため、最後までやりとおせなかった。内容については、会話表現の問題が役に立つと思う。だが問題や解答形式が単調なため、答えているうちに飽きてしまう。途中で試験を受けているような錯覚を起こした。もう少しバラエティーに富んでいる方がよい。楽しみながら、という点で考えるとあまり面白いとは言えない。

H君に実際に試してもらったサイトは上記の3つであるが、これ以外に文法学習用のものを2つ紹介しておく。

愛知工業大学の英語教員が発行しているオンラインジャーナル、The Internet TESL Journal の中に Self-Study Quizzes for ESL Students という英語学習者用のコーナーがある。そこには文法項目別に練習問題が掲載されている。レベルも3段階に分かれており、自習用に活用できるサイトである。

(<http://www.aitech.ac.jp/~iteslj/quizzes/>)



またオハイオ州立大学が開設しているサイト (<http://www.ohiou.edu/esl/english/grammar.html>) にも学習者にとって有益な情報が多数掲載されている。

このサイトにアクセスし、学びたい技能、項目、レベルを選ぶと、様々な組織が設定しているリンク先のページへと移動し、そこで練習問題に取り組むことができる。



3 リスニング学習に役立つサイト

(1) MSU Vincent Voice Library

(<http://www.lib.msu.edu/vincent/>)



米国でも最大級の規模で音声記録を所蔵しているミシガン州立大学の The Vincent Voice Library がWWW上で公開しているもので、5万人以上の人々のスピーチやインタビューを聞くことができる。古くは1892年のGrover Cleveland大統領のスピーチをはじめとして、Theodore Roosevelt や John F. Kennedy など20世紀の歴代米国大統領の声も収録されている。各々の長さは1分程度と比較的短いですが、スピーチスタイルの勉強にも役に立つと思われる。ただし古い記録もあり、ライブスピーチを録音したものであるため、以下の指摘のとおり、音声の質はあまりよくない。リスニング力を伸ばすことを主な目的として利用するのは難しいと思われる。

利用者の感想：音質が良くないため、内容が把握できなかった。そのため、最初の印象よりは興味がもてな

った。音質が改善され、内容が聞き取りやすくなれば、もっと面白いと思う。また米国史に興味のある人にとっては、訪ねてみたいサイトであろう。

(2) World Radio Network
[\(http://www.wrn.org/\)](http://www.wrn.org/)



世界各国のラジオ放送をリアルタイムで聴くことができるサイトである。ニュースを中心とした内容であるが、英語圏以外の国の放送も聴けるので、時事関連の情報源としても活用できる。しかしニュースを理解するためには、リスニング力の他に背景知識が多く求められるため、初級レベルの学習者には難しく感じられることだろう。

利用者の感想：音質は良いので、聴き取り易い。海外の放送を聞く機会が少ないため、パソコンからバックミュージックが流れてきたときはわくわくした。

このサイトと同じように英語のニュースが聴けるものに、CNN (<http://www.cnn.com/>) や BBC (<http://www.bbc.co.uk>) がある。どちらも英語学習者を対象としたプログラムも提供しており、段階を追って学習できるように工夫されている。

さらにリスニング力増進を目指す人向けに開設されているサイトとして、Randall's ESL Cyber Listening Lab (<http://www.esl-lab.com>) がある。英語の教員を務める個人が作成しているページであるが、会話を中心にレベル、長さも様々な聴き取りの練習問題が掲載されている。問題形式も選択問題や、空欄補充問題があり、終わると直ちに採点される。スクリプトも用意されており、流れてきたメッセージの内容を確認することができる。充実した内容で、自学用に活用できるサイトであろう。

以上、数ある英語学習者用サイトの中から、いくつか拾って紹介してきた。最後にまとめとして、こうしたサイトの今後について考えてみたい。

4 これから

21世紀には英語を日本の第二公用語に、という意見がある。その是非はともかくとして、パソコンを介した新しいメディアのおかげで英語を学ぶ機会が増すのは歓迎すべきことであろう。特に WWW はその特性上、学びたい人すべてを対象にしうる優れた教育用メディアであり、今後英語学習用のコンテンツが増えることが望ましい。ここで見てきた WWW のサイトはいずれも無料で利用できるものである。その点からも、英語教育に携わるものとしては今後こうしたサイトが増えていくことに期待したい。特に文法のように体系だった知識の獲得が必要なものは、文書と問題集、テストがセットになったいわば「学習パック」のようなものが WWW 上に公開されていて、時や場所を選ばずに利用できるのが理想的な英語学習環境といえよう。

ここでレビューしたサイトは、教育機関や大学図書館が開設しているものを除くと、ほとんどが個人の善意によって支えられている。それだけに内容更新の頻度、問題の量、質などに限界があるのも事実である。国民的レベルで英語能力を上げることを目標に掲げるならば、WWW を活用することは有効な手段のひとつである。そのためには、現在公開されている WWW のような個人ベースのもの他に、教育機関相互が協力しあって教材を開発し、公開し、メンテを行いながら維持していく個人を超えたプロジェクトが必要であろう。筆者は、資金、人的支援を含めた取り組みがどこからか始まることを淡い期待を持って待ちながら、今後も英語学習に役立つサイトに注目していきたい。